

作家の①石牟礼（

）道子さんは本らしい本を読まずに育った。20歳になるまで読書経験といえ、中里介山の長編時代小説『大菩薩峠』くらい。（1）都会から届く文学誌にも反発を覚えた▼めざしたのは、故郷熊本 of 天草や②水俣（

）のお年寄りが使う言葉をいかした作品。歌うような③ヨクヨウ（

）の豊かさをうたい上げ、そ

れを破壊した水銀汚染を告発した▼△祈るべき天とおもえど天の病む▽。水俣病患者と一緒に運動したところに詠んだ句だ。祈っても天は何も言ってくれない。天自身が病んでいるのか。石牟礼さんの⑤憤（

）りを伝える▼患者から学んだ哲学は「の

さり」だという。天からたまわったものを意味する。豊漁が「のさり」なら、病苦もまた「のさり」。「迫害や差別をされても恨み返すな。のさりち思えぞ（たまものだと

思え）」。加害企業も⑥コクハク（

）な世間も恨むまい。その（2）崇高さに打

たれる▼⑦訃報（

）に接して、十数年前の取材ノートを読み返してみる。「患者さんは病状が悪いのは魚の⑧供養（

）が足りないからと考える。岩や洞窟を

拝んだりする」「それを都会から来た知識人は無知で⑨頑迷（

）だと言う。

私はそうは思わない。患者さんは知識を超えた野生の英知を身につけています」▼代

表作『X』の題に込めた思いを自ら語る。「患者さんの家に通い、絶望の極限を

見た。地獄から抜け出すには浄土へ行くしかない。希望の見えない日々でした」。水

俣の人々の⑩言霊（

）を心でとらえ、世に問い続けた人生であった。

〔2018年2月11日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 傍線部（1）の理由を、次の文章中の11字以内の言葉をあとの（ ）内に

当てはめる形で答えよう。（文章は、12日社説より）

・水俣病患者の声をすくいあげてきた作家が告発したのは、公害や環境の破壊にとどまらない。私たちの社会に深く横たわる「近代」の価値そのものだった。（中略）恵みの海とともにあった人々の質素だが穏やかな暮らしが、いかに奪われたか。成長を最優先し欲望をかきたてる政治、科学への信頼、繁栄に酔い、矛盾に目を向けぬ人々。それらが（A）何を破壊してしまったのか。

〔理由〕（ ）がそこに感じられたから。

問三 問二文章中の「（A）何」にあたるものはたとえば何か、天声人語中の石牟礼さんの言葉から11字で抜き出して答えよう。

（ ）

問四 傍線部（2）「崇高さ」を感じる理由を30字程度でまとめてみよう。

（ ）

問五 『X』の書名として適するものの記号を○で囲もう。

ア『椿の海の記』 イ『水はみどろの宮』 ウ『苦海浄土』 エ『十六夜橋』

問六 次は石牟礼さんの言葉である。（ ）に適する2字の県名を書き入れよう。

・「（ ）と水俣で起きたことの背景にあるのは、お金が一番の生きがいだ倫理になつてしまっているということです」※2011年発生の災害への言葉